

- 令和2年度 赤松則良没後100年記念企画展
男爵・赤松則良を巡る人々・・・P1～2
- 津倉家住宅見学会のお知らせ・・・P3
- WEBで文化財だよりを楽しもう!・・・P4
- コラム『コロナという名の流行病』
村松浩之・・・P4

令和2年度 赤松則良没後100年記念企画展

だんしゃく あかまつのりよし
男爵・赤松則良を巡る人々



9月2日(水)～10月6日(火)まで

(9月7・14・23・24・28日、10月5日は休館)

入館無料

時間：9時～16時30分まで(入館は16時まで)

場所：旧赤松家記念館 内蔵ギャラリー(磐田市見付3884-10)

旧赤松家記念館 TEL0538-36-0340 / 共催 磐田市歴史文書館

「沼津兵学校とその時代」2014、「幕末」2019より転載



令和2年9月23日は赤松則良(1841-1920)が亡くなって、ちょうど100年目の命日になります。

そこで旧赤松家記念館では、9月2日から10月6日まで内蔵ギャラリーで没後100年企画展を開催します。

「男爵・赤松則良を巡る人々」と題し、赤松則良と関係のあった旧幕臣や明治時代の政界、財界の人々を探っていきます。

ここでは赤松則良と、則良と交流のあった2人の人物を紹介します。



赤松則良とは

日本造船の父と称される赤松則良は、幕臣として長崎海軍伝習所で測量術・航海術などを学び、咸臨丸での渡米随行を経験後、オランダに留学し造船について学びました。その後、横須賀造船所長となり造船を指導、のちに佐世保鎮守府・横須賀鎮守府の司令長官を歴任しました。

見付にある旧赤松家は、明治期に磐田原台地に茶園を開拓した則良が明治 20～30 年代に建てた邸宅跡で、現在も残る赤煉瓦の門は県指定文化財になっています。

赤松則良を巡る人々 1 かつ かいしゅう 勝海舟



勝海舟

咸臨丸を指揮し日本人初の太平洋横断に成功。軍艦奉行となる。維新後は、政府の相談役などをつとめた。

則良は長崎海軍伝習所で、勝海舟に直接教えを受けています。『赤松則良半生談』(あとがき)※には、長崎海軍伝習所で学んだ勝海舟と則良の関係について、「・・・勝は彼にとって兄貴であり、師であり、この関係は最後まで変わるところがなかった。・・・勝海舟という大きな人物に巡り会い、直接そのもとの教えを受けたということが、やがて将来彼が咸臨丸で渡航するきっかけとなったり、・・・即ち、日本の海軍の礎を築く重要な役割を彼が持つことになった、そもその芽生えがここにあったのである。」としています。

※赤松則良の談話をもとに子孫が編集した記録

赤松則良を巡る人々 2 えのもと たけあき 榎本武揚

則良はオランダから帰国した慶応 4 (1868) 年に、長崎海軍伝習所からの付き合いである榎本を訪ねています。この時、則良は弟とともに榎本の艦隊に加わりたくと進言します(後の「五稜郭の戦い」)。しかし、『赤松則良半生談』(あとがき)によると榎本は、「これからが日本の海軍にとって大事なところで、これには新しい知識が必要である。君は 5 年間もオランダに居て造船学を勉強して来た貴重な人材だ。弟が参加することで君の面目は立つ。君はどうしても残って、将来の日本海軍の創設のために貢献して貰わなければならない。だから一緒に行くのはあきらめてくれ。」とこんこんと諭され、それで則良は榎本と行を共にすることを断念して艦を去ったと言われています。

則良は榎本武揚をして、この国にとって貴重な存在であると言わしめたのです。

記念館で！講演会で！

内蔵ギャラリーでは、今回紹介した 2 人以外にも、近代郵便制度の創設者である前島密など則良と交流があった人々を紹介しています。また、旧赤松家記念館では、勝海舟の書簡など則良と交流のあった人物との縁の品を展示しています。講演会もおこないますので、展示とあわせてお楽しみください。

演題：「男爵・赤松則良 ～磐田茶へ賭けた夢～」

講師：磐田市歴史文書館長 木村弘之

日時：令和 2 年 9 月 19 日 (土) 13 時 30 分～15 時 00 分 聴講無料

場所：磐田市立中央図書館 2 階視聴覚ホール

定員：先着 40 名 9 月 1 日から電話にて受付 旧赤松家記念館 0538-36-0340



榎本武揚

オランダ留学後、海軍奉行となる。戊辰戦争の際、五稜郭で官軍に反抗。降伏後、明治政府に参画。諸大臣を歴任。



つくら 津倉家住宅 見学会のお知らせ

今年も、掛塚湊の繁栄の歴史を伝える貴重な文化財である「津倉家住宅」の見学会を開催します。普段は公開していないため、この機会にぜひご覧ください。

●日時 10月17日(土)、18日(日)

申込不要・見学無料

●公開時間 9:00～16:00 (最終入場 15:30)

●住所 磐田市掛塚 1099

●JR 磐田駅・豊田町駅・浜松駅からバス
「掛塚」下車徒歩5分

●駐車場 天竜川掛塚橋下河川敷駐車場

※感染症拡大防止のため、見学の際はマスクの着用をお願いします。感染症の感染拡大状況によっては中止となる場合もありますので、ご了承ください。



津倉家住宅外観



津倉家とは

掛塚は、江戸時代から水運業の拠点として栄えました。津倉家は、江戸屋と号して江戸時代から材木商・両替商・廻船問屋として、天竜川上流の木材などの運搬に従事していました。その後、明治時代には掛塚の中でも有数の規模を誇る豪商となりました。明治22年(1889)に建てられた母屋は、掛塚湊の歴史を伝える商人の屋敷として貴重な文化財です。

みどころ

母屋

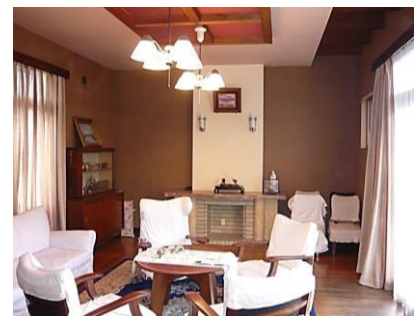
木造2階建て瓦葺きで、正面(南)側は1・2階共に格子窓が見られます。座敷を仕切る襖には江戸時代後期の著名な画家・渡辺華山の高弟である福田半香と平井頭齋の山水画が描かれ、いずれも市指定文化財となっています。



座敷の襖絵(福田半香画)

洋間

昭和10年に増築された洋間です。当時東京などで流行していた「洋館付住宅」(和風住宅の一部のみを洋風にし、応接間とした)を意識して増築したものだと考えられます。内部は17.5畳の板間で、西側には襖、東側には模造暖炉あり、部屋の中央には応接セットが置かれています。



洋間

問合せ：磐田市歴史文書館(土・日・祝日休み) TEL 0538-66-9112

磐田市ホームページで公開中

WEBで文化財だよりを楽しもう！

パソコンやタブレット、スマートフォンなどから閲覧できます！



©磐田市

ご自宅でいわた文化財だよりを楽しんでみませんか。市ホームページでは、最新号のほかバックナンバーも公開しています。バックナンバーの閲覧方法と、これまでに発行した文化財だよりの中から今月のお勧めをご紹介します！

● 閲覧方法 ●

磐田市ホームページトップページ内のページ番号検索に1007901を入力後、いわた文化財だよりのバックナンバーの一覧ページから閲覧したい号数をダブルクリックしてください。

● 今月のお勧め ●

防火の神様として広く知られる秋葉山。遠州地方はそのお膝元です。そもそも秋葉山とは？秋葉山常夜灯？道標に彫られた「あきはみち」？文化財だより第87・88・90号で紹介しています。ぜひ、お読みください。



職員リレーコラム

はやりやまい コロナという名の流行病

村松 浩之

今年、新型コロナウイルス感染症に始まり、長梅雨による自然災害が続き、この後も酷暑、台風、インフルエンザ流行など、まだまだ気の休まる時がない。

さて、そもそも感染症の原因といえば、細菌やウイルス、真菌などの病原体であるが、19世紀後半それらの存在が解明されるまでは、天災と同様「神罰の類」^{たぐい}による^{はら}と考えられ、「お祈り」「お祓い」など信仰で救済できると信じられていた。

奈良時代、西日本を中心とした流行病(天然痘)などによる国の混乱が生じた際、聖武天皇が「国分寺」^{こんりゅう} 建立や「東大寺大仏」^{ぞうりゅう} 造立を命じたのもそれゆえであったという。



遠江国分寺跡空撮

ふと、出雲大社の観光ガイドさんの「出雲国は、全国から集う八百万の神々のご加護により、天災被害が少ないのです。」との言葉を思い出した。

なるべく早い時期にコロナ禍が終息し、晴れて第32回オリンピック競技大会が開催されることを願いながら、地元遠江国の「国分寺」を散策してみようか。

編集後記 内蔵での展示では日本史の授業で聞いたことがあるあの人と赤松さんが！？といった発見もあるかもしれません。あわせて記念館の展示もぜひご覧ください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699
◆WEB版は市HPから閲覧できます。 **磐田市 文化財だより** **検索**

